こんにちは、
日本共産党井上けんじです

日本共産党南地区委員会☎ 371-9164 自宅☎(FAX 兼用)６９１－３３２３
日本共産党京都市会議員団 ☎２２２－３７２８ FAX 211-2130 '16年２月21日号
市会議員団ホームページ http://web.kyoto-inet.or.jp/org/cpgkyoto/ E-mail cpgkyoto@mbox.kyoto-inet.or.jp

あとは野となれ山となれ
どうなる京都駅周辺!?
土建国家の再来か

市長が「リニア新幹線を京都に」と言っています。八条口の地下 40 mに駅を作るそうです。しかし最近はトーンダウン。今は「北陸新幹線を」と言っています。地図に線を引くのは簡単ですが、市内のどこを通るというのでしょうか。また堀川塩小路～油小路八条間の、東海道本線ガード(写真)の拡幅をとも言っています。井上議員は「いくら土木技術が発展しているとはいえ、周辺住民や環境への悪影響、地震の可能性、在来線への影響など、多面的な検討抜きに結論ありきで進めるのは問題だと指摘しています。

２／12の市会委員会で、井上議員は、関連して、京都駅八条口整備工事についても、関係者の声を十分に聞くべきことなどを求めました。

財政危機の根源に迫らず、「事業見直し」など徹底した「財政改革」!?

２月17日、市長が、来年度市予算案を発表、24日開会の予算議会に提案され、３月末まで、予算審議が続きます。詳細は次号以下にてお知らせします。

「地域経済の活性化」とか「命と暮らしを守る」などと言いながら、その中味は、大企業やベンチャー企業偏重の「成長戦略」(既存産業の軽視と、需要＝購買力を無視した供給一辺倒政策)、つまり「大企業が活動し易い日本」を掲げるアベ流経済政策の京都版です。福祉分野の予算を増やしたと言いますが、自然増(＝当然増＝同じ福祉水準でも対象者が増える分、予算が増えるだけ)の範囲内にすぎません。

市民サービスの低下に繋がる、職員大幅削減や「事業見直し」＝市民向け施策の切り捨て、などを計画しています。

無いのは、財政ではなく、市民の暮らしに心寄せる市長の気持

大きな問題は、「財政危機」と言いながら、その危機打開の為の真剣な打開策がないこと、若しくは、職員削減など打開の方向が間違っていることです。例えば、

※ ※

①市の収入である法人市民税の一部が、政府によって国の税金に振り替えられた(つまり市の収入が減らされた)ことについて、市長は、何の批判的見解もありません。

②自治体の収入不足に応じ、国から各自治体に来る地方交付税交付金というお金が、年々、減らされています。市長も口では増額を要求してはいますが、本気度が問われます。理詰めで迫るという点でも、他の自治体に呼びかけて団結の輪を広げるという点でも、全く不十分です。

③南部クリーンセンターにムダな展望台を作るとか、リニア・北陸新幹線誘致や堀川～油小路道路拡幅計画等、莫大な負担が危惧される大型公共事業を予定するなどムダづかいは温存です。

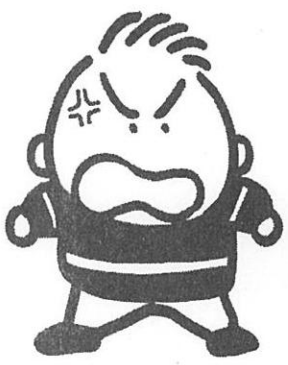
④法人税や市民税は、現行、利益や所得の多少に関係なく、ほぼ同じ税率です。本来は、高い所得からは高い税率で、低い所得からは低い税率で(累進税率)、という集め方が原則です。大企業に、ボロ儲けにふさわしい応分の負担を求めるべきです。

⑤市長に、国への要求運動を呼びかけても、「国も財政が大変」という認識です。大企業への異常な減税や軍事費の増大、政党助成金など国の財政において改善すべき点は山ほどもあるのに、です。

※ ※

結局、無いのは財政ではなく、市民の暮らしに心寄せる市長の気持ちです。「財政危機」は市民へのしわ寄せの口実だと言うべきでしょう。そもそも政府も市長も、大企業などから税金を集めたりムダを削ったりする予算編成の権限を持ちながら「危機」だというのは、つじつまが合いません。市民の立場から言えば、編成の方向が間違っているということでしょう。

市政・予算報告会
２月２６日(金)
午後７時～
(於)教育文化センター103号室
(丸太町川端東入)



衆議院京都三区(伏見・乙訓)で、４月、補欠選挙実施へ